

# こだま

第197号  
2019. 1

ISSN 0915-8782



金沢大学附属図書館報“こだま”

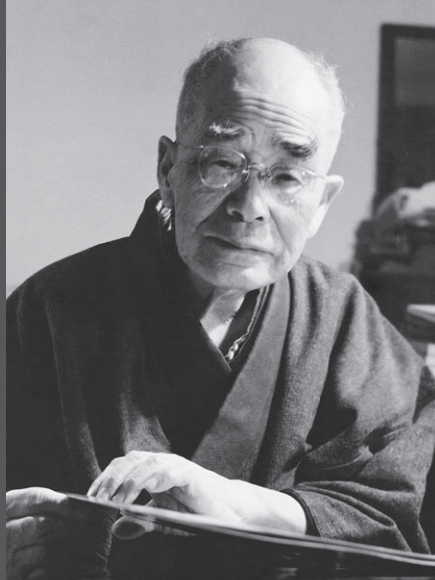
<https://library.kanazawa-u.ac.jp/>

## CONTENTS

特集：大拙と幾多郎 ～超大先輩を知る、読む～ ……1  
 とぼろニュース／電子ジャーナル「Taylor & Francis」パッケージを導入しました ……5  
 金大生のための読書案内ー教員から学生へ ……6  
 シンポジウム「大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう」開催！ ……7  
 図書館トピックス ……8

## 特集：大拙と幾多郎 ～超大先輩を知る、読む～

DAISETZ



鈴木大拙



西田幾多郎

KITARO

日本を代表する思想家、鈴木大拙と西田幾多郎が石川県出身であることをご存じでしょうか？  
 2人はともに1870(明治3)年生まれ。最初の出会いは、1887(明治20)年のことでした。金沢大学の前身の一つである第四高等中学校の予科3年で同級生となった後、生涯を通じての親友となりました。日本とアメリカ、京都と東京など、その後2人は遠く離れた場所で活躍をしますが、幾多郎が没するまでの60年弱緊密な交流が続きました。今号では、今年度2人の名前を冠して第1回目が開催された「金沢大学国際賞」にちなみ、この2人の大先輩の思想や著作を紹介します。この機会に、大拙と幾多郎の思想や人生に触れ、著作に挑戦してみませんか？

### 鈴木大拙略歴

- 1870 現・石川県金沢市本多町で生まれる
- 1887 第四高等中学校予科に入学(翌年中退)
- 1892 幾多郎の勧めで帝国大学哲学科選科に入学
- 1897 渡米し、出版社勤務
- 1909 帰国。学習院講師(翌年教授)
- 1921 真宗大谷大学(現大谷大学)教授
- 1949 文化勲章受章
- 1950 ニューヨークに住む
- 1958 帰国。翌年から鎌倉で研究生活
- 1966 東京で死去

### 西田幾多郎略歴

- 1870 現・石川県かほく市森で生まれる
- 1887 第四高等中学校予科に入学(翌年本科入学)
- 1891 帝国大学哲学科選科に入学。94年卒業
- 1896 第四高等学校講師
- 1897 山口高等学校教務嘱託
- 1899 第四高等学校教授
- 1909 学習院教授
- 1910 京都帝国大学助教授(13年から教授)
- 1940 文化勲章受章
- 1945 鎌倉で死去

肖像写真提供：鈴木大拙館、石川県西田幾多郎記念哲学館

## 大拙を知ろう

### 大拙の思想

大拙は、東洋思想の翻訳と講義を通じて、禅をはじめとする「東洋的な見方」を広く世界に伝えた仏教哲学者でした。海外では、D.T.Suzukiとして知られる大拙は、世界的に見てもっとも著名な日本の仏教学者でしょう。長命だった大拙の思想は、時代によって変化しています。次のようなキーワードをもとに、その思想をたどってみませんか？

- **即非の論理** 「Aと非Aとがただちに一つ」というもの。我々の日常言語に基づく分別以前にある一真実を指す言葉
- **「人」の思想** 中国禅思想の一つの到達点と言われる禅の用語。人は即非の論理を生きているものであると大拙は説明している
- **無分別の分別** 人の行為を重んじると同時に、その行為の無効用性むくゆうせいの意義を強調する大拙独自の言葉
- **浄土教と日本的靈性** 大谷大学に転任後、大拙は浄土教に出会い、自己を超えるものの「大悲のはたらき」を学んだ。その研究は、日本独自の宗教意識である「日本的靈性」へと展開していった
- **華嚴思想** 大拙が、戦後、仏教思想の中でもっとも高く評価したのが、事物と事物とが無碍に溶け合っていると説く華嚴思想だった

### ことば

大拙は、味わい深い言葉をたくさん残しています。

- 指がなければ月を指すわけには行かぬが、指を月と間違えては大変である。『禅学への道』
- 人間としての意識を持ちつつ、一片の木、または石のようであれ。『仙厓の書画』
- 生命は「墨絵」である。ためらうことなく、知性を働かせることなく、ただ一度かぎり描かねばならぬ。『禅』
- 単なる論理はけっしてわれわれを動かさない。そこには知性を越えた何かがあればならぬ。『禅』

### 訪ねる

鈴木大拙館（所在地：金沢市本多町3丁目4番20号）

展示を鑑賞するだけでなく、来館者が大拙との出会いを通じて、自身の思索につなげることのできる空間。金沢ゆかりの建築家、谷口吉生氏の設計。多数の外国人が訪れる人気スポットになっています。

#### 大拙から見た幾多郎

彼を一言で評すると「誠実」でつきる。

鈴木大拙著『わが友西田幾多郎』

#### 幾多郎から見た大拙

大拙君は高い山が雲の上へ頭を出して居る様な人である。

鈴木大拙著『文化と宗教』の西田幾多郎による「序」

#### 2人の恩師・北条時敬

2人の人生を導いたキーパーソンが、第四高等学校第5代校長・北条時敬ほうじょうときゆきでした。北条は、後に東北帝大総長、学習院院長にもなった金沢出身の数学者・教育者で、第四高等中学校時代の幾多郎に数学を教えています。また、第四高等中学校を中退していた大拙は、北条に刺激されて、初めて禅を知ります。その後も、北条は就職先を紹介するなど、2人の人生に大きな影響を与えています。北条の蔵書の一部は、金沢大学附属図書館に寄贈され、現在も「北条文庫」として保管・利用されています。

## 幾多郎を知ろう

### 西田哲学とは？

西田の哲学は、純粹経験、場所の論理、絶対矛盾的自己同一などの概念によって独自の体系を築いており、「西田哲学」という固有名詞で呼ばれています。それは、生きることを凝視しつづけた哲学でした。その内容は大変難解ですが、旧制高校の学生たちの必読の書であり、その後も多くの知識人に影響を与え続けています。次のようなキーワードを起点に、皆さんも「西田哲学」に挑戦してみませんか？

- **純粹経験** 物（客観）と心（主観）を分ける先入観におちいる前の直接的な経験
- **場所の論理** なんでも「どこか」にあることに注目して存在と認識を説明する論理
- **絶対矛盾的自己同一** 現実の世界は二つの矛盾する側面を持ち、絶えず変化しているということ

### ことば

- 西田にとって四高は、母校であり職場でもありました。

私が四高の一生徒であった時は、人間一生の方向の定まる青年時代であり、私が四高の一教官であった時は、三十から四十までの人間の一生において最も元気旺盛の時代であった。『四高の思出』

- 四高教授時代、強い思索力で学問に向き合う姿から、学生からは「デンケン先生（デンケンはドイツ語のdenken「考える」）」と呼ばれていました。

回顧すれば、私の生涯は極めて簡単なものであった。その前半は黒板を前にして坐した、その後半は黒板を後にして立った。黒板に向かって一回転をなしたといえ、それで私の伝記は尽きるのである。『或教授の退職の辞』



四高公認の下宿「三々塾」の集合写真（明治42年）  
前列左から2番目が西田幾多郎  
（金沢大学資料館所蔵）

- 京都の銀閣寺の近くにある「哲学の道」には、西田の短歌が記された歌碑が建っています。

人は人吾はわれ也とにかくに吾行く道を吾は行くなり

- 西田は、生涯の中で家族の死や病気にたびたび遭遇し、8人いた子どものうち、5人に先立たれ、その間、妻を亡くしています。その哲学の背後には、常に身近な人物の死がありました。

哲学の動機は「驚き」ではなくして、深い人生の悲哀でなければならない。『無の自覚的限定』

- 海岸近くの河北郡森村に生まれ、鎌倉で没した西田は、終生海を愛していました。

私は海を愛する、何か無限なものが動いているように思うのである。『鎌倉雑詠』

### 訪ねる

**石川県西田幾多郎記念哲学館**（所在地：石川県かほく市内日角井1）

西田幾多郎と「哲学」に触れることのできる哲学館。建物は、世界的な建築家、安藤忠雄氏の設計。近年、幾多郎直筆のノート50冊やメモなどの新資料が発見され、金沢大学とも連携して、修復や読解が進められています。

（参考文献）今回の原稿の執筆にあたっては次のような文献を参考にしました。  
鈴木大拙館開館五周年記念パンフレット、2017／竹村牧男『鈴木大拙』創元社、2018／「西田哲学：西洋との格闘」朝日新聞 2018年9月17日掲載／櫻井敏『西田幾多郎：寸心の思想』金沢市国際文化課、2005

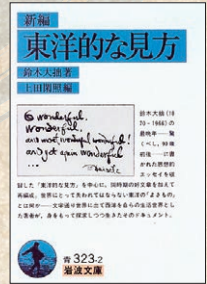
（文責・橋 洋平）

## もっと知りたい人のための読書案内

難解な印象のある2人の著作や関連書籍の中から、鈴木大拙館と石川県西田幾多郎記念哲学館の職員の方にお薦めの本（代表作、若者向けの本、入門書など）を紹介していただきました。

### 鈴木大拙関連のお薦め図書（推薦者：鈴木大拙館 猪谷聡学芸員）

- **鈴木大拙『新編 東洋的な見方』(岩波文庫) 岩波書店** 中央図文庫・新書 1188.8 : S968  
晩年の大拙の円熟した思想のエッセンスが詰まった一冊。新聞連載の文章も収められています。あなたが関心を持ったところから読み進めてみては？
- **D. T. Suzuki『ZEN and Japanese Culture』 Tuttle** 中央図開架 188.8 : S968  
日本文化の魅力を端的に説き明かす英著。茶道や華道に惹かれる、また剣道や俳句を嗜む現代の日本人にとっても有効です。海外で仕事をするのが夢だという学生の皆さんにも。
- **鈴木大拙, 曾我量深, 金子大栄, 西谷啓治著『親鸞の世界』真宗大谷派宗務所出版部** 中央図開架 188.72 : S556  
上級編。大拙と仏教思想家との語らひは、脳が痺れるほど刺激に満ちています。西谷啓治（幾多郎の弟子・石川県出身）の驚異的な司会ぶりにもご注目。英訳が望まれてなりません。
- **『サヨナラ、民芸。こんにちは、民藝。』 里文出版** 中央図開架 750.4 : S275  
おすすめは、岡村美穂子氏と千宗屋氏の対談。大拙の思想のキーワード「無心」が語られています。ちなみに表紙の人物は、大拙を唯一の師と仰ぎ、大拙が信愛を寄せた柳宗悦。
- **岡村美穂子, 上田閑照著『大拙の風景—鈴木大拙とは誰か—』 燈影舎** 中央図開架 188.82 : S968  
一番の入門書。上田閑照先生は哲学者で、幾多郎の孫弟子でもある方。岡村美穂子さんは人間としての大拙をよく知る方。おふたりを通して語られる「大拙」は身近に感じられます。



### 西田幾多郎関連のお薦め図書（推薦者：石川県西田幾多郎記念哲学館 中嶋優太専門員）

- **西田幾多郎著『善の研究』(岩波文庫) 岩波書店** 中央図文庫・新書 1121.6 : N724  
日本人による最初の独創的で体系的な哲学書として、世界中で読まれている。その半分は四高（今の金大ですよ!!）で西田が行った講義の内容です。善く生きるためにはどうすればいいのかを考えるために、そもそもこの世界がどのようなものかから考え直しています。
- **西田幾多郎著『西田幾多郎随筆集』(岩波文庫) 岩波書店** 中央図文庫・新書 1914.6 : N724  
哲学論文は読みにくいけれども、エッセイは読みやすく、美しい。西田がはじめて「数学」に触れて、「理論」の面白さに目覚めたころを回想した「コニク・セクションズ」。トマス・ハーディやラムなどの英文学の批評を織り交ぜ、「猫も死んでしまった」と老境の寂しさをつづった「暖炉の側から」など。
- **竹田篤司著『西田幾多郎』中央公論社** 中央図書庫 121.9 : T136  
27歳までの伝記。27歳の西田は、学内のスキャンダルに巻き込まれて講師を務めていた四高をクビに、家庭では父親とのトラブルで妻とも離婚。のちに大哲学者になるとは思えない幾多郎のハプニング続きの青春時代が鮮やかに、ドラマチックに描かれています。
- **藤田正勝著『西田幾多郎—生きることと哲学』(岩波新書) 岩波書店** 中央図文庫・新書 S121.6 : F961  
西田哲学についてのコンパクトな新書。西田の思想は次々と発展して変わっていき、経験、芸術、歴史、身体、宗教など様々なテーマにわたりますが、その全体がわかりやすくまとめられています。
- **中岡成文著『私と出会うための西田幾多郎』 出窓社** 中央図開架 121.6 : N163  
鷲田清一先生とともに大阪大学で臨床哲学運動をはじめた中岡成文先生が、現実的な日常の問題について、西田の人生と哲学を手掛かりに論じた本。西田哲学の背景となる哲学、思想の基礎知識も学べます。



## 図書館学生ボランティア とぼらニュース

### とぼら選書ツアー 10月14日(土)

今年2回目となるととぼら選書ツアーを実施しました。今回初めてKabos大桑店で開催しました。とぼらのメンバーが中央図書館に置きたい本を選びました。

これらの本は、11月7日(水)に「ほん和か文庫」と「とぼら選書コーナー」に並べました。とぼらが作成したPOPも飾ってありますので、ぜひ手に取ってみてください。



### 第1回とぼら「館」めぐり 11月17日(土)

とぼらでは、金沢市内にある文学館や美術館などの文化施設をめぐる『とぼら「館」めぐり』ツアーを企画しました。とぼら以外の学生も、興味があったら参加できるツアーです。

その第1回として、「金沢ふるさと偉人館」を見学しました。

図書館の職員さんを通してギャラリートークをお願いしたところ、快諾していただきました！学芸員の増山様、ありがとうございました。

当日の企画展は「<sup>ほうじょうときゆき</sup>北条時敬とその教え子たち」でした。

北条先生は旧第四高等学校（現金沢大学）の校長などを務めた明治時代の数学者・教育者で、教え子には「加賀の三たろう」といわれる西田幾多郎、鈴木大拙（本名は貞太郎）、藤岡作太郎がいます。

北条先生は、四高だけでなく山口高等学校（現山口大学）や広島高等師範学校（現広島大学）でも校長を務めていて、それぞれの学校の困難な状況を改善していったそうです。彼の事績に関する展示資料がたくさん飾られていて、中には宮中晩餐会のボンボニエールもあって、金平糖が食べなくなりました(笑)。

北条先生はご自分の蔵書を金沢大学に寄贈されていて、金沢大学の中央図書館には「北条文庫」があります。金沢は空襲を受けなかったから、こうした古い本がたくさん残っているみたいです。



「金沢ふるさと偉人館」は北条時敬以外の偉人もたくさん展示してあって、そちらもとても興味深かったです。似顔絵がカワイイ…。

タカジアスターゼの高峰謙吉やZ項で有名な天文学者の木村榮などは知っていましたが、他にもたくさんの偉人を知ることができました。ちょっと金沢を誇らしく思った有意義な時間でした。

(とぼらM)

### 第2回とぼら読書会 12月11日(火)

中央図書館のほん和かふえ。で開催した今回の読書会では、江戸川乱歩の『二銭銅貨』を題材として3人で議論が行われた。まず出た話としては、作品内において外国の推理小説を幾つか紹介していることと暗号が使用されていることであった。ここから本作品は推理小説の紹介や導入という面を含んだ、ある種の概説的な存在ではないかという意見が登場した。

結末についてはネタバレになるため詳細は控えるが、主人公の意図がどうであったかという点において意見が分かれた。総評として文章の構成や時代背景、推理小説についての様々な話や結末のとらえ方など、多様な議論ができた充実した読書会であった。惜しむらくは参加者があまり多くなかったことであり、次回はもう少し大人数が読書会ができればまた違った議論が可能となるだろう。

(とぼらK)

## 電子ジャーナル「Taylor & Francis」パッケージを導入しました

学術情報基盤整備計画の第3期後半（平成31年～33年）では、新たに「Taylor & Francis」の人文社会学系、理工学系、医薬学系のパッケージを導入しました。2019年1月からは、パッケージに含まれる約2,100タイトルが読めるようになりました。どうぞご利用ください。

[https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page\\_id=18408](https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=18408)（学内専用）

(雑誌・電子情報係)

金大生のための読書案内－教員から学生へ



第25回



前多 肇 先生  
(理工研究域物質化学系 教授)

「人生を楽しくする本」

平成30年10月22日～ 中央図書館で展示中

教員から教員へ、リレー形式で続いている教員おすすめ図書コーナーは、今回で第25回を迎えました。今回バトンを受け取ってくださったのは理工研究域物質化学系の前多肇先生です。

私は本を読むのが大好きだ。電車の中、病院の待合室、一人で食事をする時には、必ず本を読んでいる。12,000冊ほど所有していたが、これまでに7,000冊ほど自分でスキャン（自炊）した。スキャン済の本は捨て、データをiPadに入れて読んでいる。今は1年に1,000冊ほどスキャンしているので、残りの5,000冊はあと5年ほどですべてなくなる計算だ。これまでに7回引っ越しをしたが、本が詰まった段ボールの山と闘ってきた。本は大切であり、なかなか捨てる気にならない。これを解決してくれたのがスキャン（自炊）→紙の本は捨てる→iPadで読むという方法である。このおかげで、現在は快適な読書生活を楽しんでいる。

昔は、お気に入りの本を求めて街中の本屋をうろついていたものだが、今はネット上でクリック一つで購入できる。紙の本はどんどん電子書籍化されている。時代が変わり、本の形や流通が変わってきても、本の役割は変わらない。本は先人達の英知である。

学生諸君、好奇心旺盛であれ！ 調べ癖を持って！ 情報に貪欲になれ！ 余った時間は自分のために使え！（それが周囲の人のためにもなる！）自分を磨くのは自分しかない！

	書名 著者・出版事項
1	シャーロック・ホームズの冒険 コナン・ドイル著, 延原謙訳, 新潮社, 2011.4
2	ポッコちゃん 星新一著, 新潮社, 1979.10
3	民法おもしろ事典 和久峻三著, 中央公論社, 1986.8
4	ゼニの人間学 青木雄二著, ロングセラーズ, 2009.6
5	変わらなきゃの話 森毅著, KKベストセラーズ, 1996.11
6	先生の一言 リクルートキャリアガイダンス編, 学陽書房, 1997.3
7	なぜあなたは論文が書けないのか？ 佐藤雅昭著, メディカルレビュー社, 2016.7
8	iPadでつくる「究極の電子書齋」 皆神竜太郎著, 講談社, 2010.9
9	サバイバル さいとうたかを著, リイド社, 1994-1995



※全文は、右記URLもしくは2次元コードからご覧いただけます。 [https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page\\_id=22028](https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=22028)

- 第22回「人間を理解する人間の試み／遠藤徳孝先生(理工研究域 地球社会基盤学系)」は自然科学系図書館で展示中です。
- 第23回「統計学を拓いた異才たち／広瀬修先生(理工研究域 生命理工学系)」は保健学類図書室で展示中です。
- 第24回「時間がありあまっている(ように思える)人への濫読のすすめ/黒田智先生(人間社会研究域 学校教育系)」は医学図書館で展示中です。



前多先生による「図書館ブックトーク#2」を11/5(月)に開催！ 中央

教員おすすめ図書コーナーで展示中の「人生を楽しくする本」にあわせて、図書館ブックトークを開催し、12名の参加がありました。

中央図書館のLAでもある西尾香央理さん(学校教育学類4年)に聞き手をお願いし、対話形式のセッションを行いました。

「久しぶりに本を読む時間を作りたいと思った」「色々な方の本との付き合い方を聞いてみたいです」など、参加者も読書に対して多くのことを感じたようです。



平成30年度国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業

## シンポジウム

## 「大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう」開催！

平成30年9月20日(木) 14:00~16:30 金沢大学自然科学系図書館 AV ホール

平成30年度国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業の一環として、シンポジウム「大学図書館蔵書の未来を語ろう」を開催しました。

今回のシンポジウムは、大学図書館と出版社の双方から大学図書館における電子書籍導入の現状と課題を確認し、電子書籍の今後の展望や整備方針、活用に係る具体的方策などについて検討することを目的としたもので、事前に実施したアンケートの結果報告や昨今の具体的な事例を交えながら活発な議論が行われました。

県内外から図書館職員など40名の参加があり、開催後のアンケートでは「他大学の事例や電子書籍の現状を知ることができてよかった」「著作権、大学経営、障がい者支援など広範囲に関係する話なので、もっとじっくり聞きたかった」などの感想が寄せられました。



小山憲司

(中央大学文学部教授)

## 基調講演 「大学図書館における電子書籍導入の現状と課題」

本講演では、国内外の電子書籍平均所蔵冊数や、図書館資料費の推移など電子書籍導入の現状とともに、大学図書館に電子書籍を導入する意義や課題についての提示がありました。また、電子資料優先でのコレクション構築を行う海外の大学の事例や、大学生が電子書籍より紙を好む傾向にあるとの世界規模の調査結果が紹介され、大学図書館として何を実現するために電子書籍を積極的に選ぶのか？という点について今後検討していく必要があると述べられました。

## 出版社報告 「大学図書館向け電子書籍販売の現状と課題」

Maruzen eBook Libraryについては、国公立大学の70%、私立大学の62%が導入(2018年8月末)しているなど、電子書籍の導入が進んでいる現状についての説明がありました。その上で、大学図書館向け電子書籍の課題として、数式や図版を含む専門的な学術書はレイアウト重視のものが多く、デバイスごとの画面に合わせて表示を変化させるのが難しい点、スマホやタブレットからの閲覧ニーズが増加している点などが挙げられ、さらに具体的な改善策の提示がありました。また、様々な大学における実際の活用事例や利用促進活動についても紹介がありました。



金森正晃

(丸善雄松堂株式会社)

## 事例報告1

「電子ブックを買おう  
—千葉大学での購入と利用—」

洋書の利用では電子媒体が紙媒体を上回るなど、電子書籍がよく利用されている実感があり、今後も更なる電子書籍整備および学内での利用促進を図っていく旨の報告がありました。



池尻亮子

(千葉大学附属図書館  
利用支援企画課専門職員)

## 事例報告2

「電子書籍化の未来は来る？  
浜医スマート・ライブラリ構想」

単科医大という特性に基づくスマート・ライブラリ構想をもとに古い医学書等の除籍を行い、学生の利用スペースを確保するとともに、紙書籍から電子書籍への移行を図っている現状について報告がありました。



伊原尚子

(浜松医科大学附属図書館  
学術情報課長)

## ～パネルディスカッションより～

## 電子書籍の利用を促進するにはどうしたらよい？

▶まずは購入したことをアピールするところから始めたらどうか。学生の学習行動や、教員の教育・研究活動に寄り添う視点が大事。

## 紙書籍を除籍して電子書籍に切り替えていくことについて学内から抵抗はなかった？

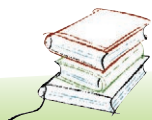
▶医学系など分野によっては古い版の紙書籍があること自体が弊害になることもある。一方、分野によっては電子書籍で古い版を買いたいという要望もある。教員とよく相談して分野ごとに基準を設けて進めていく必要がある。

## 大学図書館利用者にとって有用な電子書籍とは？

▶紙か電子かの書籍タイプごとに向き不向きがあるのではなく、利用のタイプごとに向き不向きがあるのでは。使い勝手のよい学習環境に適したものが定着していくはず。図書館や教員が想定していないような学生が生み出すアイデアにも期待できるし、そういうものをどんどん取り入れていきたい。

当日の資料等については、金沢大学学術情報リポジトリKURAからご覧いただけます。





## 図書館



## 8/7 金大生による“調べ学習”教室

自然科学

自然科学系図書館に設置した環境学コレクションを中心とした資料を活用し“調べ学習”に取り組むことで、図書館に親んでもらうこと、また、環境問題に対する理解を深めてもらうことを目的として、「環境」をテーマに開催しました。小学生17名が参加し、本学の学生から、テーマの決め方やまとめ方など実践的なアドバイスを受けながら、1時間30分にわたって熱心に取り組みました。

10/17-19 第6回ブックリユース市  
in 自然科学系図書館

自然科学

自然科学系図書館の入館ゲート前で理工系専門書中心のブックリユース市を開催しました。3日間で提供した900冊のうち、持ち帰りは235冊でした。

## 11/12-13 第16回ブックリユース市

中央

秋のブックリユース市を中央図書館のエントランスホールで開催しました。2日間で提供した1,484冊のうち、持ち帰りは1,151冊で、大好評のうちに終了しました。



## Q3のラーニング・コモンズ活動報告

## ●Library Guide &amp; Tour/留学生のための図書館利用説明会

中央 自然科学

図書館職員と留学生ラーニング・コンシェルジュが連携して、留学生を対象とした図書館利用説明会を10月15日(自然科学系図書館)と10月25日(中央図書館)に実施しました。

## ●LA自主企画「就活あれこれ座談会」

中央

10/19, 10/25

## ●English Hour!

10/22, 11/5, 11/19

中央

10/31, 11/14

自然科学

## ●図書館ビブリオバトル

中央

第34回 10/17, 第35回 11/21



## 文献検索講習会などを開催

・10/23-25 図書館活用ミニ講座「卒論・レポートのための資料の集め方」

中央

・11/6-7 秘書さんのためのミニ講習会 図書館活用&文献入手法

医学

・11/21 「EBMR」データベース利用説明会

医学

・12/3 CINAHL講習会

保健

・12/13-14 MENDELEY&SciVal説明会

自然科学 医学

## 電子ブック44タイトルを購入!

6月11日から8月10日までの期間に、国内出版社発行の学術書を中心とした約55,000タイトルの電子ブックを自由に閲覧できる「試読サービス」を実施しました。1,479件のアクセスがあり、このうち学生用としてリクエストがあったものやアクセス数の多かった44タイトルを購入しました。

電子ブックには「いつでもどこからでも利用できる」、「単語で検索できる」などのメリットがあります。ぜひご活用ください。

## 資料展示

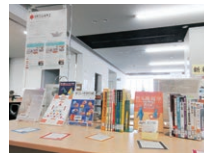
## 中央図書館

- 企画展示「もっと知ろう! 災害と防災」(10/4-31)
- 企画展示「鈴木大拙—西田幾多郎記念金沢大学国際賞第1回受賞者フレデリック・ジラル先生業績展」(10/15-11/4) ※関連特集p.1-4をご覧ください。
- 企画展示「明治150年金大図書館の蔵書でたどる日本近代文学百選」(11/19-12/26)
- 就職活動支援図書展「いざ、就活」(12/4-1/11)



## 自然科学系図書館

- 企画展示「自然災害と防災」(8/6-9/7)
- 企画展示「ORIGAMI:紙を折る、そして広げる」(11/16-1/10)



## 医学図書館

- 企画展示「図書館で今すぐできるCBT・OSCE対策」(10/12-11/15)
- 企画展示「明治150年金大医学部の前身校とその蔵書」(11/26-12/21)

## 編集後記

大拙や幾多郎ら先人たちの知見を集積しているのが図書館です。今回の特集をきっかけに、過去の名著なども読み直してみたいはいかがでしょうか。

広報委員会メンバー

橋 洋平 瀧口玲子 遠藤優紀 伊藤美和  
北村左希子 水木理恵 笠原健司 守本 瞬

## 金沢大学附属図書館報「こだま」第197号

平成31年1月11日発行 発行：金沢大学附属図書館

編集：広報委員会 印刷：株式会社 橋本確文堂

〒920-1192 金沢市角間町 TEL：076-264-5200

E-mail：etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp

\*この印刷物は再生紙を利用しています。